

コミュニティ・サービス・ラーニング

佐藤 豊

1. はじめに

ICUでは、2002年の夏にアジアの各国から代表を招き「アジアにおけるサービス・ラーニング (Service Learning in Asia)」という国際会議を開催した。また、サービス・ラーニング・センターも同年10月に設立された。これは、サービス・ラーニングの目指すところと本学創立の理念およびリベラル・アーツ (liberal arts) 教育に共通するものがあると認識され、サービス・ラーニングが教育への新たな視点として注目され始めたためではないかと思われる。筆者は、日本語教育という立場から、2001年と2002年に全学コース「コミュニティ・サービス・ラーニング」を担当し、2002年の国際会議に参加した。以下に本学におけるサービス・ラーニングの紹介とコミュニティ・サービス・ラーニングにおける活動内容を報告する。

本学におけるサービス・ラーニング関係の開講コースは以下のとおりである。

コース名	2002 - 2003年 ICU要覧
サービス・ラーニング入門 (CP066J,E総合科目LXVI)	地域社会サービス・ラーニング、国際インターンシップ、ワークキャンプなどサービス・ラーニングの活動に学生を動機づけるために、ICUやNGO、地方自治体、国際機関等が行っている様々な活動を紹介し、意味のあるサービス活動を行うための準備を行う。(2000年開始、学部共通科目、2単位)
国際インターンシップ (IDw385J,E)	国内、国外で国際的な活動を行っている組織、政府機関、NGOでの活動経験を単位として認めるコースである。 <u>最低30日間のフルタイムの実践期間を必要とする</u> 。希望者は担当教員と相談の上、準備のための文献講読計画などを作成するとともに活動期間終了後、体験報告書をまとめて提出する。(1996年開始、国際関係学科共通専門科目、3単位)
コミュニティ・サービス・ラーニング (CP201J)	コミュニティにおける奉仕活動、インターンシップなどの経験を単位として認めるコースである。 <u>最低30日間のフルタイムの実践期間を必要とする</u> 。希望者は担当教員と相談の上、活動計画書を作成する。また、活動終了後体験報告書をまとめる。(実施は夏期休暇中、科目登録は担当教員が行う)(1999年開始、学部共通科目、2単位)

サービス・ラーニングの実習準備 (CP202E,J)	国内、海外を問わず、サービス・ラーニングの実習活動に参加する学生に必要な基本的な知識、心構え、着目点を示し、サービス・ラーニングを実り多いものとするを目的とする。たとえば、サービス・エージェンシーについての基本的な理解、サービス活動を行うにあたっての基本的な注意事項、研究課題の設定と情報収集方法、日誌や記録の重要性などを実例やディスカッションを通じて学ぶ。(2002年開始、学部共通科目、1単位)
サービス経験の共有と評価 (CP203J,E)	このクラスでは国際インターンシップやコミュニティ・サービス・ラーニングに参加した学生たちが彼らの経験を他の学生と語り合い、ディスカッションを行う。これら学生のサービス活動の指導を行った教授もディスカッションに加わり学生たちの経験が学びとして深められるよう助力する。(2002年開始、学部共通科目、1単位)

上記のサービス・ラーニング関連コースと同様に実践的で社会参加型のコースとしては、「海外日本語教育実習」(3単位、語学科)、「三鷹地域社会研究」(3単位、学部共通科目)、「社会福祉概論」(2単位、学部共通科目)、「国際NGO論」(3単位、国際関係学科)、「国際非営利部門の運営原理」(2単位、国際関係学科)などがある。また、学部のコースではないが、「タイ・ワークキャンプ」は多くの学生に大きな影響を与えたと聞いている。

山本先生(2002)は『「サービス・ラーニング」のすすめ』の中で、「サービス・ラーニング」を「他人および社会のために、学生が自発的に、一定の期間継続して、無報酬で、適切な機関で、必要とされている奉仕(サービス)活動を体験するプロセス」と定義し、奉仕に当たり「奉仕活動を適切に行うために必要な、何らかの知識習得のメカニズムが組み込まれていることが必要だ」と述べている。そして、その体験から期待される効果として、「体験学習」「自己発見」「思いやりの心」「責任感」「リベラルアーツの実践」を挙げられている。

また、McCarthy先生(2002)は、サービス・ラーニングは「心の教育(educating the heart)」のために行われるものだと指摘された。

Service learning is one small opportunity that allows you to focus on your heart for a change rather than on just your minds. Service learning is the process by which classroom learning is linked to community service guided by reflection. While service learning occurs in an educational context, it is designed to give students a different experience of learning while at the

same time helping others. It is a way of linking education of the heart with that of the mind. The notion of service is this: of doing something for others without thought of your own personal gain. It doesn't have to be a grand service, as often just a small kindness or act can bring someone much pleasure. And often from doing acts for others we gain insight about ourselves. (McCarthy, 2002, p.3)

そして、西尾先生（2002）が書かれているように、サービス・ラーニングは教育への新しい視点ではあるものの、「神と人への奉仕」を建学の精神に持つICUの人間には何か馴染みのあるもの「something familiar」（p.167）でもある。

2. コミュニティ・サービス・ラーニング

資料1は、2001年度に配布されたコミュニティ・サービス・ラーニングの履修法である。資料1にあるように、学生は三鷹市役所、アジア学院、福祉施設、それから、「日本語を教えるサービス」等の受け入れ機関のうちひとつを選び、担当の教員からガイダンスを受けることになる。

資料2は、2001年度に「サービス・ラーニング入門」のクラスで三鷹市の職員の方が配付した資料で、本学の学生が参加できる部門が挙げられている。アジア学院は、元ICU教授の田坂興亜先生が現在校長をなさっているところで、「農村指導者をアジア・アフリカの開発途上国から招き、9ヶ月の間、栃木県西那須野キャンパスにて、農村リーダー養成の研修を行っているところ」である（http://ari.edu/overview_j.html）。

日本語教育のボランティアを希望する学生は、2001年・2002年ともに9名ずつであった。それぞれの活動場所は以下のところである。（括弧内の人数は、コミュニティ・サービス・ラーニングを受講してはいないが参加したICU生の数である。この学生の数には含まれていない。人数が書いてない受け入れ機関はそれぞれ1名ずつを受け入れた。）

2001年度

- 三鷹国際交流協会（MISHOP） 8名
- 調布国際交流協会（CIFA）
- 世田谷日本語クラス
- 世界の子どもと手をつなぐ学生の会（CCS）
- 韓国YMCA
- 安康女子高等学校（韓国） 4名
- 善徳女子高等学校（韓国） 1名（+1名）

- Payap大学 (タイ)

2002年度

- 三鷹国際交流協会 8名
- さくらの会
- 安康女子高等学校 (韓国) 2名 (+1名)
- 亀烏女子高等学校 (韓国) 3名
- 京花女子高等学校 (韓国) 2名

初年度には、なかなか受け入れ機関が見つからず、そのような機関を探すに当たって根津先生、広瀬先生をはじめいろいろな方のお世話になった。

以下にコミュニティ・サービス・ラーニングへの関わりを簡単に記す。5月の初めに「サービス・ラーニング入門」のクラスで1時間、日本語教育におけるボランティア活動について講義をして、その後、日本語教育のボランティアを希望する学生と毎週1時間会い、日本語教育の教材を紹介したり、模擬授業を行わせたり、受け入れ先の斡旋をしたりした。彼らの所属学科は多様であり、言語学・日本語教育に関するコースを受講していないものがほとんどである。2001年度には、国分寺市にある光公民館に学生とともに、ボランティアの日本語を見学に行くことも行った。また、2002年度は、韓国に行く前に2日の韓国語のレッスンと秋学期の集まりを2回行った。これら学生との受け入れ先を探すとともに、受け入れ機関との連絡もとり、韓国の高校、タイの大学、三鷹国際交流協会に行く学生については覚書の交換を行った。また、海外渡航の学生には保護者と学生の署名の入った誓約書も提出させた。これは、国際インターンシップにより海外派遣させる場合の手続きを教えていただき、踏襲したものである。さらに、海外渡航をする学生には、特に海外渡航のための書類をcollege-wide officeに提出させ、渡航前と渡航中は、常時電子メールによる連絡をとった。緊急時の連絡先は常に自宅に用意しておき、病気・怪我・事件・災害があった場合はすぐに大学および親元に連絡できるように準備することも必要であった。春学期後半、夏休み、秋学期に日本語のボランティア活動をした後、学生達は資料3にあるようなジャーナルとエッセイを提出して、それに基づいて成績が与えられた。

学生達は日本語教育についての知識はほとんどないことから、サービス・ラーニングにおいて彼らが提供できる「知識」とは基本的には母語として持っている日本語と日本社会・文化に関する知識である。在日外国人(韓国人・中国人が殆どである)に対しては、主に日本語会話の練習の相手・日本人の友人としての話し相手という役割をしていたようである。韓国においては、学生達は日本語の母語話者としての発音、日本に関する情報源、また、年齢も近い実際の日本人の若者に接する機会を提供した。彼らの存在は、韓国の学生

達には非常に刺激になり、日韓の交流に非常に役立ったと高校の先生方からうかがっている。

3. おわりに

コミュニティ・サービス・ラーニングにかかわって、学生と今までとは全く違う関係を作ることができたことを大変幸運だったと思っている。サービス・ラーニングは学生達が経験を得るプロセスではあるのだが、私自身、学生達とともに（成長する）経験を共有しているような気がした。学生達の困難は自分にとっての困難であるし、学生達の喜びは自分にとってもうれしく感じられた。そのように感じたのは、問題が起こったときに相談相手になったことと、彼らのジャーナルとエッセイを読むことができたことに起因すると思う。また、このコースを受講することにより明確な目的意識を持つようになった学生が何人かいた。エッセイのひとつに「私は今回のコミュニティ・サービスラーニング、日本語ボランティアに参加して、人生が変わったと言っても過言ではない。」という書き出しがあった。これは決して大げさな書き方ではなく、実際にこの学生のその後の活動を考えると、彼の人生はこれで大きく変わったことを実感した。この学生は現在韓国の大学に留学中であり、将来も何らかの関わりを韓国と持とうと考え、大学院進学を計画しているようである。タイワークキャンプに行き「人生が変わる」学生がいることをよく耳にするが、自分の担当したコースでそのようなことが起こったことに感銘を受けた。もちろん、全ての受講生が劇的な変化を経験するという訳ではないが、韓国・中国という存在を強く意識するようになったと思われる学生は少なくない。（それは、日本語学習者に韓国人・中国人が多いことが原因でもある。）韓国に行った学生達が、韓国人の先生や学生と交流を続けていることも聞いている。このコースの後で、韓国の先生や学生が九州に修学旅行で来た際にわざわざ会いに行ったり、その後韓国に再びたずねて行ったり、韓国語・中国語を習うことを決意した学生たちもいる。私としては、コミュニティ・サービス・ラーニングでの体験をもとに、学生たちの一人でも明確な目的意識を持つようになり、あるいは、アジアの隣国を意識するようになり、お手伝いできたとしたらうれしい限りである。

謝辞：今回の私のコミュニティ・サービス・ラーニングを助けてくださった方々にお礼申し上げます。特に、田坂興亜先生とFlorence McCarthy先生には多くのことを教えていただき、アドバイスにのっていただきました。感謝申し上げます。

参考文献：

McCarthy, Florence E. (2002) Educating the Heart: Service Learning and Shaping the World We Live in. 2002年4月24日のサービスラーニング入門のクラスでの配付資料

Nishio, Takashi. (2002) The Nature of ICU's Service Learning Curriculum. In Service Learning in Asia: Creating Networks and Curricula in Higher Education, pp. 167-175.

山本和 (2002) 『『サービス・ラーニング』のすすめ』2002年2月23日配布資料

CP201 「コミュニティー・サービス・ラーニング」コースの履修登録方法

1. 2001年度の実習先と指導教授

1) 三鷹市での実習	西尾 勝 (社会科学科)
2) アジア学院 (栃木県西那須野)	田坂 興亜 (理学科)
	(Course Coordinator)
3) その他の福祉施設	森本 あんり (人文科学科)
4) 在日外国人に日本語を教えるサービス	佐藤 豊 (語学科)

2. 実習の時期

原則として夏期休暇中。ただし、春学期中—夏—秋学期の場合もありうる。

3. 条件；30日以上、無償でボランティア活動を行い、レポートを提出する。
 コース担当の上記いずれかの教授の指導を受ける。

4. 科目登録の仕方
 - 1) 学生は、登録申し込み用紙に必要事項を書き込み、担当の先生のサインをもらってから、College-wide Program Office (本部棟1階) に提出する。
 提出期限は、春学期期末試験開始の前日。
 - 2) College-wide Program Office では、提出された申請書をもとに「登録者リスト」を作成し、Course Coordinator の署名を得て、秋学期登録期間中に教務課に提出する。
 - 3) 教務課は、「Course Coordinator の署名入り登録者リスト」により、担当教員に代わって、登録を行う。
 - 4) これ以降提出された申請書については、登録は認められない。

5. 履修の仕方
 - 1) 学生は、どこで実習を行なうかを決めて、それぞれの担当の先生にアドバイザーになってもらう。あるいは、コース担当の先生のいずれかに相談して、実習先を紹介してもらう。
 - 2) 担当の先生は、担当する学生の実習先と連絡をとり、実習・評価を依頼すると共に、個々の学生の実習内容を協議し、学生に知らせる。
 - 3) 学生は、一般教育；Introduction to Service-Learningを履修し、春学期中に充分準備をして実習に臨む。
 - 4) 学生は、担当の先生の指導を受けた上で、30日以上の実習を行い、秋学期の期末試験開始前日までにレポートを提出する。

6. 評価と成績
 - 1) 担当の先生は、実習先の評価と学生が提出したレポートに基づいて学生を評価し、Course Coordinator がその成績を取りまとめた上、担当教員全員のサインを付して、指定の期日までに教務課に報告する。
 - 2) 期限内にレポートを提出しなかった学生の成績はEとなる。
 - 3) 教務課では、報告された成績を各学生の秋学期の成績としてつける。

■三鷹市での2001年度（平成13年度）ICUコミュニティ・サービス・ラーニング受け入れについて

- 1 三鷹市でのインターンシップ受け入れ担当窓口
企画部企画経営室 及び 総務部職員課人事研修係
- 2 三鷹市でのインターンシップ受け入れの流れ（予定）
 - (1) 三鷹市でのインターンシップを希望する学生の登録（5月中旬）
※三鷹市を希望する学生の人数が明確になった段階でICUと市が協定を締結
 - (2) 配属される職場の決定（5月下旬）
 - (3) 三鷹市でインターンシップを行う学生を対照にしたガイダンス（6月）
 - (4) 個々の学生と職場が相談の上、インターンシップのスケジュール表の作成
(6月下旬)
※インターンシップ実施までに保健等の手続きを行う
 - (5) インターンシップ実施（7月～8月）
- 3 本年度、インターンシップ学生を受け入れる可能性のある職場（例）

企 画 部	企画経営室企画調整係
	企画経営室女性・平和・国際化推進係
	広報課
	情報推進室
総 務 部	防災課
市 民 部	市民課
健康福祉部	市内市立保育園
	子ども家庭支援センターすくすくひろば※
	介護保険課◎
生活環境部	ごみ対策課 生活経済課◎
教育委員会	スポーツ振興課 社会教育会館 図書館◎

※いずれも定員は1～2名ずつ。

- 4 インターンシップを行う際に望まれること
 - ・「市民サービスの一端を担う」ということの重要性
 - ・「社会人である」ということの責任
 - ・「全ての経験が勉強の一貫である」という認識を持つことの意義

※問い合わせ先：三鷹市企画部企画経営室 大朝
電話 0422 (45) 1151 (内線2150)
メールアドレス s-oasa@city.mitaka.tokyo.jp

1. 提出物・成績その他

30日の実習 (現在～秋学期期末試験開始前) - 去年の例

提出物

- (1) 春学期までに：1. 計画書 (春学期末)、2. 「今回のCSL参加の目的・期待」春学期末、3. 誓約書・覚書・計画書 (MISHOP、海外などに行く場合)
- (2) 秋学期末までに：1. ジャーナル、2. エッセイ

ジャーナル

- 学習者のプロフィール (日本語のレベル、学習歴、目的)
- いつ?
- どこで?
- 何を? (語彙・文型・教材名ページ)
- どのように1? (どんな活動、問題、教材を使ったか)
- どのように2? (準備は何をしたか。何を参考にしたか。何を用意したか。)
- コメント (どのような質問が出たか。どのように説明したか。何か難しかったか。)

エッセイ

- 学習者のプロフィール・状況・日本語学習の目的
- 学習者と日本の関係は? (日本観、日本への関心・感情)
- 自分と学習者の関係は? (年齢、背景の違い、家庭、育った環境、日本におかれて
いる立場の違い、考え方、社会・文化・経済的な困難)
- 何を知ったか。

- ☆ 相手の理解
- ☆ 国際化
- ☆ 異文化接触
- ☆ 対人関係
- ☆ 機関
- ☆ 日本語教育
- ☆ 日本語学習者

2. 次回から 木曜日 12:25~13:25 に集まる。(その時間に出られない人は、木の3時に来て make-up)

- 何を教えるか。(教材を見る)
- 去年の学生との話
- 模擬授業：初級の文法、初級の漢字、初級のリスニング
- 模擬授業：中級の読解、映像

3. 秋学期のミーティング4回(夏休み明け、活動報告1、活動報告2、期末前)

4. 受け入れ先

4.1 MISHOP → 資料 申し込み用紙に記入して、月曜日に提出する

4.2 韓国

安康女子高等学校 7月8日~7月20日、8月26日~9月7日

もう1校